

# 自治大職員の声

自治大学校教授 山川 弘峻

編集者注：本稿は、自治大学校における演習・講義の特長などについて、自治大学校の職員が記したものです。

## 1 はじめに

皆さん、こんにちは。総務省自治大学校で教授をしています山川弘峻と申します。自治大の魅力をもっと多くの方々に知ってもらおうということで、情報発信の多様化の観点から、講義内容や卒業生・職員の声などについて情報発信をすることとなりました。光栄なことに、職員第1号の寄稿を依頼されたので、今日は、自治大の研修の基幹である政策立案演習について私が感じているところを簡単にお話したいと思います。

「情報通信技術の発達、グローバル化などかつてないスピードで世の中が変化している」といった声を頻繁に聞くようになりました。皆さんの認識はどうでしょうか。個人的には、ほんとにそうだろうかと疑念を抱いています。別に車も空を飛んでいるわけではありませんし、人間が火星に到達したという話も聞きません。かつて、例えば1903年にライト兄弟が飛行機を発明したときは、格段に移動が便利になり、大きく時代が変わったと言われたでしょうし、1967年にアポロ11号が月面着陸に成功したときの世界の驚きに匹敵するものは、今日でもなかなか見られないのではないのでしょうか。世の中は、徐々に、しかし確実に便利になっている、というのが私の印象です。とはいうものの、インターネットの登場により、個人レベルで格段に利便性が増していることは否定できません。いまや携帯電話さえもっていれば、瞬時に最新の情報を入手することができ、逆に、自身の意見を表明することも極めて容易です。

これは、研修機関にとっても、改革の必要性をもたらします。すなわち、世界各国に所在する一流の教授の授業が、YouTubeなどの動画配信サービスを媒介として、世界中で視聴することが可能となってきているので、研修機関にとっては、著名な講師を招聘し講義を開催するだけでは、付加価値を付けるのが難しくなってきているのです。

そこで、自治大でも、研修における講義科目の割合を減らし、演習を増やす方向に舵を切り始めています。その演習の最も重要なものが「政策立案演習」なのです。

## 2 政策立案演習とは

政策立案演習とは、その名のとおりに、行政課題を発見し、これを解決するために必要な政策を立案するものです。政策立案演習は、自治大の研修の中で最も大きなボリュームを持っており、1時限70分で約80時限が割り当てられています。

自治大の政策立案演習の特徴は、第一に一般論に終始した立案にしないで、具体的事情に即した具体的な立案を行うことにあります。すなわち、行政課題を発見する際には、具体的な地方公共団体を設定し、その地域の具体的状況を調べた上で、演習の対象とする行政課題を洗い出すことから始まります。そして、この課題を解決するために、取り得る手段を数多く検討した上で、費用対効果、実現可能性等を踏まえ、首長に進言するにふさわしいものを選び出すのです。

また、政策立案演習では、最後に発表会を行い、行政経験が豊富な講師陣から評価を受けることとなります。講師陣には、行政学の大家やかつて地方公共団体において特別職として勤務されていた方など、実際にその立案された政策が行政課題の解決策としてふ

さわしいのかを判断するに当たって適切な方々が揃っています。このような講師陣から評価を受けることを前提として研修生は政策を立案することとなるので、いかなる根拠により講師陣の理解を得て、政策の必要性を評価してもらうか、さながら自身が当該政策を立案する部署で勤務し、首長まで決裁を仰ぐかのごとくリアリティをもって演習に取り組むこととなります。

### 3 政策立案演習の難しさ

内部教官として政策立案演習をお手伝いして感じるのは、教官として立ち位置が難しいということです。

講義であれば、どの部分に重点をおいて、どの程度の時間を費やし、また、どのような話題を提供するか全部自分で決めることができます。つまり、講義では、教官側に内容を決定する主導権があるのです。一方で、政策立案演習では、その主体は、研修生であり、主導権を持つのも研修生です。すなわち、どのような行政課題を取り上げるかを決めるのは研修生ですし、その解決の方向性を決めるのも研修生です。

論理的に明らかにおかしい場合は、自信をもって指摘をすることができますが、価値判断が入ってくる部分は、そう簡単ではありません。あくまでも、こういう見方・考え方もあるのではないかという示唆をして、研修生自身の判断で方向性を修正する、あるいは、しないことを決定するのが重要です。これは、課題発見、あるいは、課題解決方針の決定の場面でも同じです。教官が課題を指定し、あるいは、解決方針を指定し、それに研修生が従う形では意味がないのです。あくまでも演習の主体は研修生であることを基本に、その自主的な決定を促す要素をどのように提供できるかが重要だと考えます。私は、着任してからまだ日が浅いので、あまり偉そうなことは言えませんが、日々このようなことを考えながら、政策立案演習に向き合っています。